

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部30円

2014年 6月 20日

第 373 号

「骨太の方針」に思う

理事長 稲松 義人

行財政改革の必要性が言われる中で、しばらく前から「骨太の方針」という表現を耳にする。戦後の右肩上がりの経済に翳りが出てきて、経済の建て直しのために基本政策が議論される過程で、その場その場の小手先の政策ではなく、基本政策において揺るぎのないがっちりとした方針を示すのだという意気込みを表したのだろうか。「骨太」という表現は、

最初小泉政権のときに使われたのではないかと記憶するが、今年また安倍政権の下で「骨太の方針2014」が発表されている。正式には「経済財政運営と改革の基本方針2014」というようだ。「デフレから好循環拡大」という副題もついている。

現在の政治や行政、あるいは経済活動の中心を担っている人たちの多くは、「奇跡的」と言われた戦後復興から高度経済成長と言われた夢のような時代を生きてきた世代ではないだろうか。だから夢から覚めても、なおあの夢の世界に戻りたいという妄想が消えないのではないかと思う。私も間違いなく同じ世代である。

しかし、社会福祉の仕事に就き、小羊学園で働くようになって、そこで出会った人たちの人生に出会い、それまでとは

違ったものを教えられた。それは、人が究極のところまで安心して生活するための基盤は、経済的な豊かさではないということである。

私たちは今、本当にあの時代に戻るといふ基本方針に立ってよいのであろうか。物質的には恵まれた環境であつたかも知れないが、経済成長の対価として失つてしまったものもたくさんあるのではないだろうか。

きつと日本だけのことではない。世界情勢を見ても似たような空気を感ずる。東西冷戦時代が終わり、アメリカが世界経済の中心だと思える時代があつた。日本はそれに追従してきた。しかし、世界の情勢は明らかに変化してきている。今までどおりの影響力を維持しようとする勢力がある。アメリカに換わつて影響力を持つとうとする人たちがいる。その間で揺れ動く国々もある。私たちに見えにくいのが、情報と武力を背景にしたそんな駆け引きが続いているような気がする。

東日本大震災は、これまでの日本の経済中心の国づくりの問題点を、より鮮明に指摘したのではないかと感じている。何のために地震列島といわれる国土に原子力発電所をこれほどまでに

作ってきたのだろうか。新幹線や高速道路など交通網の整備は、地方のためのようであり、実際には富が都市部への集中を進めたのではないだろうか。

「骨太」と言われる社会構造の骨格を組み直すことは必要なかも知れない。しかし、「骨太の方針2014」で社会保障改革については「聖域なく見直し、徹底的に効率化・適正化していく必要がある」と示されている。この方針に沿って何が削られるのだろうか。余分な脂肪は代謝することでかえって活力的になるかも知れないが、必要な筋肉を削ぎ、それを活動させるエネルギー供給を制限すると、身体全体の活力は損なわれる。そして何よりも、未来に向かつて命をつなごうとする意欲が減退するだろう。

経済だけが人を支えているわけではない。健康な身体を取り戻すためには、経済的な視点に偏った議論では論じきれない。人類全体を歴史的、世界的視野に立って論じるべきときがきているのではないだろうか。

70年前の戦争の悲惨な体験から国民が守り続けてきた「戦争をしない」という日本国憲法の思想は、人類全体と世界に示すことができる平和な社会構造のための「骨太の方針」ではないだろうか。

小羊学園のささやかな働きもまたこの方針に沿って進めたい。

支援センターわかぎ 全面改築完成

平成24年度浜松市社会福祉施設等耐震化等整備事業によって、建物の老朽化が進んでいた支援センターわかぎの全面改築工事がこの度完了し、竣工を迎えることができました。竣工にあたり、概要等をご報告いたします。

改築に向かって

支援センターわかぎ(旧若樹学園)は昭和53年に設立された成人施設です。当時、小羊学園(旧称精神薄弱児施設)に在籍していた成人を迎える子どもたちの生活の場として、成人の施設を建設する計画になったとお聞きしています。当時では先駆的な小舎制(ユニットケア)を導入し、入所施設でありながら利用者の生活を施設内に留めず、地域へ通う暮らしを实践してきました。私たちの先輩方が、現在では当たり前になった福祉観を昭和の時代から実践してきたことに誇りと感謝の気持ちを持つとともに、受け継ぐ重責も感じているところです。

開設から30年が経過した平成20年頃から改築の話が法人内・施設内で浮かびあがってきました。老朽化した建物を建て替えたいという気持ちはあっても、どういった建物に作り変えるのかイメージが沸いていなかったように思います。また、財源の根拠がなかったため、具体的

な目標時期を決めることも難しくなった記憶があります。

平成22年度には設計士とのヒアリングを重ねゾーニング等も含めた基本設計に取り掛かり、また改築計画の事業計画・自己資金計画もメドが立ち、理事会承認を経て、浜松市に概要調書を提出しました。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災を鑑み、国庫補助事業を受ける時期でないと判断し、一旦概要調書を取り下げました。その後、静岡県から耐震化整備事業の打診をいただき、平成24年度の補助事業として進めることができました。

改築のコンセプト

支援センターわかぎに入所されている利用者の実情は、重度化・高齢化という全国的にも障害者支援施設が抱えている課題そのものでもあります。昭和40年・50年代当時、障害者福祉の主流は入所施設でした。当時、青年だった人たちが今では高齢期を迎えています。支援センターわかぎは、平均年齢が54歳となり



きました。排泄や入浴などの直接介護を必要とする場面、構造的にも支援体制にも課題がありました。そこで新しい建物では次の視点に基づいて、基本的な図面を描きました。

①ユニット構造は維持しつつ協力体制を保てるよう、浴室・トイレをユニット間に配置する。

②生活ゾーン・活動ゾーン・管理ゾーンを分けることで、施設生活でも職住分離ができる配置とする。

③在宅障がい者のニーズに応えるべく、短期入所枠の拡大を図る。

④バリアフリー化を図ると同時に、残存機能維持のため階段等も設ける。

70歳を超えた方も2名おられます。以前は元気に走り回っていた人も年を重ね動きも緩やかになり、身体的な衰えも見られるようになってきました。改築前は完全独立4棟の小舎制で支援して

工事期間の苦勞

改築計画は現在地での居ぬき工事で行いました。前建物の解体↓仮設住宅の建設↓仮設住宅への引っ越し↓本体工事↓残存建物解体↓外構の順に行い、全面完成までに1年3ヶ月を要しました。この間、利用者さんは作業棟を仮設の住まいとしてお過ごしいただきました。前半4か月は仮設プレハブ1棟が完成しておらず、非常に狭い中で雑魚寝状態でした。8月以降は仮設住いが4棟になりましたが、プライベート空間までは保障できません。さらに夏場は「暑い」冬場は「寒い」と温度管理に限界があり、つらい思いをさせてしまいました。利用者や職員にはご苦勞を沢山お願いしたので、完成にあたっては私たち以上の喜びがあったことでしょう。



竣工式を迎える

建物本体工事(補助事業工事)は3月末で完成しましたが、外構工事等を残していましたので、全面完成は6月下旬になりました。竣工式には、利用者・職員はもとより、ご家族・行政・自治会・福祉関係者等、200人を超える方に参列いただきました。浜北教会大橋新牧師司式により、記念礼拝を行い、その後、竣工式を行いました。城内実議員はじめ、来賓の方に祝辞をいただき、改築工事に携わった設計・施工業者に感謝状の贈呈を行いました。式典終了後には、内覧会も行い、自治会や福祉関係者の皆さまにお披露目することができました。



これからの支援センターわかぎ



この思いを忘れぬよう、新しくしたパンフレットに支援センターわかぎ3つの願いとして載せました。ご紹介します。①小さな単位で、落ち着きと充実した暮らしが提供できるよう願っています。②障がいも重くても通う暮らしを大事にし、自分らしさが発揮できる活動となるよう願っています。③地域社会の一員として地域に出掛け、また社会資源として地域の方にご活用いただく中で、交流の輪を広げたいと願っています。

この3つの願いにもとづき、日々の実践が積み重ねられ、浜北区の中で地域に溶け込んだ「居心地のよい」場所になれるよう進んでいきたいと思っています。

(施設長 古橋 誠)



新しい建物を多くの皆さまの支援で与えていただくことができました。建物だけが立派でも、わかぎで暮らし利用者の満足度はあがりません。利用者を支える職員や仲間、地域の皆さまとの繋がりがあって、人としての満足度が高まるよう、支援していきたいと思えます。



夏休みに向けて
準備進む

児童デイサービスを実施している各施設は、特別支援学校が夏休みになる7月下旬をメドに、プログラム計画や利用調整等の準備に追われています。

1か月以上に及ぶ夏休みは、子どもにとっても、家族にとっても、なが〜い期間。生活リズムが崩れてしまったり、親子関係が崩れてしまったりしてしまうこともチラホラ。少しでも、リズムが整い、楽しい夏休みを過ごせるよう、スタッフも知恵を絞って計画を立てているようです。暑い時期なので、プールや水遊びなどの計画を中心に、時には電車やバスを利用した外出なども企画しています。今年はどうかな楽しいことが待っているのかな。



在宅者の将来へ
支援の勉強会始まる

通所施設に通う利用者の将来の生活の支援のあり方について、事業所間の垣根を越えて、勉強会が行われました。発起人は、アグネスみなみの清川相談員。マルカート・小羊デイケアホーム・オリーブの樹の職員有志が集い、「在宅で生活する方たちの将来をどのように支援していけるのか」をテーマに意見交換しました。今は職員の勉強会ですが、将来的にはご家族も交え、広がっていくことを期待しています。

揺れる！
消防法の改正

社会福祉施設を含む共同住居等に関する消防法の改正が平成27年4月に施行される予定です。今回、福祉分野に関わる大きな改正は、グループホーム事業のスプリンクラー設置義務に関する改正です。改正では「自力で避難困難な入居者がいる施設」とし、おおむね障害支援区分4以上が8割を超える事業所を設置義務に定義づけているようです。小羊学園が運営するグループホームは、どのホームも対象になると予想しますので、今後の動向に留意したいと思います。



社会福祉法人小羊学園
平成27年4月採用 支援員募集要項

- ① 募集施設……浜松・静岡地区の各施設
- ② 募集人員……浜松・静岡地区併せて、合計約20名
- ③ 採用条件……高校卒・短大卒・大学卒により基本給に変動有資格手当・早出手当・住宅手当等、法人給与規定により支給
- ④ 応募方法……小羊学園法人本部事務局にお問い合わせください
公休数…年間110日 福利厚生・退職共済制度あり
☎053-584-3337
- ⑤ 採用手順……一次試験・面接を経て、9月20日頃に内定通知

編集後記

支援センターわかぎの竣工式を無事終えることができました。多くの方にご列席頂き感謝の念でいっぱいである。平口自治会長や浜北手をつなぐ育成会長にお言葉を頂き、地域の中で期待されていることを感じ、身の引き締まる思いである。改めて、地域社会の一員として、皆さまに愛される居場所となれるよう邁進したい。当日は、遠く福島県南相馬市から被災地支援を受け止めてくれた「さぼーとセンターぴあ」の理事長・施設長もお越し下さった。引き続き、東北のこともお覚えください。暑い日々が続きます。どうぞお身体ご自愛ください。(F)

小羊学園を支える会

2013年度 寄付金報告

5月受付分	891,580円 (24件)
累 計	1,003,580円 (40件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店	当座預金0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園本部 ☎053-584-3337